

編集後記

『中京大学文学会論叢』第七号をお届けする。

今号は、今年度限りで退職なさる村岡幹生先生のご退職記念号としての編集となった。上代文学から、近代史研究まで、資料紹介を含む論文十二篇を掲載するバラエティに富む大部なものとなった。お忙しい折にご投稿くださった会員の皆様に深謝申し上げる。

歴史文化学科の開設の中心人物である村岡先生の想いは、今号掲載の「歴史文化学科にいらっしやいませ」にユーモアを交えて綴られている。その想いは、六名もの歴史文化学科の学生の論文掲載という成果に現れており、歴史文化学科の教育・研究の充実が伺われる。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で春季大会を中止、秋季大会の講演会を延期することとなったが、これを機に、オンラインでの実施形態の模索を始め、秋季大会は研究発表会をオンラインで開催した。インターネット環境の問題など、会員の皆様にはご負担をおかけしなければならぬが、本会の継続・発展のためにご協力を賜ることができれば幸いである。

(宮)

中京大学文学会論叢 第七号

(『中京国文学』通号 第四十号)

令和三年三月十五日 発行

編集兼
発行者 中京大学文学会

代表 村 岡 幹 生

名古屋市昭和区八事本町一〇一ノ二

電話 (〇五二) 八三五一 七一

振替 名古屋 六一六〇〇三〇

印刷所 株式会社 一誠社

名古屋市昭和区下構町二ノ三二

電話 (〇五二) 八五一 一一七一

表紙題字(書) 樽本樹郎(英信) 名誉教授